

四日市大学

学 報

第 73 号



四日市大学学長
 暁学園理事長
 喜岡 渉

学長就任にあたって

～地域イノベーションへの貢献～

本年4月1日付にて第4代四日市大学学長に就任いたしました。学校法人暁学園理事長を兼務しています。

本学は「Act4U」をスローガンに掲げています。「私たちは、地域の未来を動かす行動を起こす」という決意表明を表すものですが、「四日市大学は、あなたのために活動します」（鬼頭副学長）とも解釈され、建学の精神「人間たれ」をベースに「実践につながる学びを求めて行こうとする姿勢を表しています」（三田総合政策学部長）という現行カリキュラムのキーコンセプトにもなっています。4つのUは、Unit（個人）、Union（結合・連合）、University（大学・大学の構成員）、Universe（全世界・全人類）を連想させますが、このすべてのUのために私たちは行動する、という想いをもって各教育課程の学びを深めて行けば、地域社会の課題解決能力も数段高まるはずです。

四日市大学は、Act4Uのもと、地域を学修のフィールドとして課題解決型地域づくりを担う人材の育成を目指しています。日本全体では、人口減少・少子高齢化、産業構造・経済構造の変化、インフラの急速な老朽化、気象変動等に伴う自然災害リスクの増大などに起因する様々な課題を抱えています。そして地域こそが具体的な課題が生じる最前線であり、様々なイノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫と捉えることができます。

地域課題の一つは、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会、さらには持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ「well-being」を実現できる超スマート社会「Society 5.0」の実現です。

この社会の実現には、飛躍的に進化したAIの活用、DXの推進は必要不可欠な手段ですが、それにもまして人間としての強み、すなわち想定外に対応できる力、これまでの工業化社会とは違う新たな価値を見つけ出す感性と力、責任をもって遂行する力、倫理観、研究力が重要になってきます。デジタル化できない、こうした人としての強みを発揮するためには、多様な人間の知の集結、すなわち総合知と、建学の精神「人間たれ」にうたう心の豊かさや人としてのやさしさをもって主体的に判断し行動できる皆さんの力が必要です。

DX (Digital Transformation) とは、デ

ジタル技術を活用してビジネスや社会、生活のスタイルを変革することを意味します。デジタルシフト（アナログ・物理データのデジタルデータ化）は最初にやるべき作業ですが、ビジネスを例にとると、このデジタルデータを使ってサービス業務や製造プロセスのデジタル化に進み、さらには組織横断または全体の業務・製造プロセスのデジタル化によって「新しい価値創出」事業やビジネスモデルのX（変革）に発展させるのがDXです。デジタルシフトにはソフトウェアやクラウドエンジニアが主に寄与しますが、データビジネス戦略を担うデータサイエンティスト、新規事業開発やサービスの高度化に携わるビジネスアーキテクトやサービスデザイナーなどによるX（変革）には経営戦略や人文社会の専門知識をもった文理融合型の人が大きく貢献しています。

地域イノベーションを推進する上で、**二つの課題はアントレプレナーシップ（起業家精神）の涵養にあると考えています。**日本は諸外国に比べて起業に関する関心が低く、アントレプレナーシップに関する各種指標が極めて低い国で、この起業に関する無関心の度合いは国際競争力の低下に直結しています。国際競争力の低下に歯止めをかけ、今の生活水準を将来にわたって維持するためには、起業家精神を発揮して何かしらの新しい価値、将来のスタートアップを生み出すことが強く求められています。とくに伝統的なものづくり産業が集積している北勢地域においては、

" 喜岡渉新学長就任 "



リレー随筆

切り絵ではありません。

伊勢型紙です。

学長補佐・環境情報学部教授 伊勢型紙愛好会顧問 大八木 麻希

サクサク：ススス、ザクツ、ザクツ。柿渋の良い香りが薫る中で、伊勢型紙を切る音を心地よく感じながら、手先を動かす時間は、自分と向き合う大切なひとときであり、趣味の醍醐味を感じられます。毎日のあれこれに追われながら気づけば一日が過ぎていくような目まぐるしい日々の中で、伊勢型紙の作品を仕上げることはこの上ない贅沢な時間の使い方だと感じます。特に最近では干支の作品を仕上げることだけの年も多いですが、季節を感じられる幸せを噛みしめながら、愛情を注いでいます。

本学にはこの伊勢型紙の作成を部活動として体験できる伊勢型紙愛好会があります。開学当初から活動を継続している数少ない部活動です。伊勢型紙とは、三重県鈴鹿市白子の伝統的工芸品で、着物の染色時に用いられる型紙として江戸時代から継承されてきました。型紙は和紙を何枚も重ねて柿渋と呼ばれる発酵液で張り合わせ天



日干した後、燻す過程を二度も経て、こげ茶色の丈夫な型紙として仕上がります。この型紙の柿渋の香りが作品を作る過程で気持ちをしラツクスさせてくれます。さらに多様なデザインで構成される図案も伊勢型紙の魅力の一つです。伝統的な模様である青海波や松竹梅など日本の文化の歴史を感じられつつ、進化し続けているモダンな図案もあり、図案を選ぶときにはワクワクしてしまいます。

大八木教授の作品

私と伊勢型紙の出会い、本学に



岡村選手 応援展示

赴任した2015年、講義を始める前の休憩時間に、切り絵をしている学生がふと目に留まりました。私は小学4年生の時から切り絵を趣味としていたため、その時の同士に会えた高揚感は今でも忘れません。高揚感のままだに「切り絵好きなの？」と話しかけると、「いいえ、切り絵ではなく伊勢型紙ですよ。私たち伊勢型紙愛好会の部員です。」と笑顔で答えてくれました。イセカタガミ？と理解の追い付いていない私に、「顧問の先生が定年になるので顧問になつてもらえませんか？そうでないとな部になつてしまいます。」と懇願されてしまいました。同士に出会えた喜びから急転、仕事の話が舞い込んできた衝撃は今でも忘れません。その日の昼には、研究室に当時顧問をされていた高島慎助教授がわざわざ来てくださり、顧問への就任をお願いされました。その時に開学当時からある数少ない部活であること、三重県の鈴鹿市の伝統産業であることなど色々お話を伺ううちに伊勢型紙への興味が湧き、私は四日市大学伊勢型紙愛好会の顧問をお引き受けすることにしました。その後、私の生活には伊勢型紙が欠かせない存在となりました。35年前に何気なく始めた切り絵が伊勢型紙に出会わせてくれて、今では趣味を超えた深い喜びを私に与えてくれるものになっています。

今年度は伊勢型紙愛好会とし

●前ページから続く

スタートアップに対する関心が薄く、「後継ぎほど起業家精神が必要。既存事業を守るだけでは生き残れない」（岐阜のメーカー5代目社長）と新規事業の重要性を説く意見はほとんど聞こえてきません。

起業家精神を養う教育の取り組みは、いま中部地方の大学でも広がっています。名古屋大学は本年度からアントレプレナーシップ教育の授業を全学部の1年生で必修科目としました。本学においても総合政策学科でアントレプレナーシップ論の2年次開講を検討しています。アントレプレナーシップ教育の本質は理系文系の区別なく創造的思考力と論理的思考力を育成することにあります。PBL（課題解決型学習）を通して問題発見解決能力を養い、リーダーシップや創造性・論理性を早くから身につけておけば、起業家になるかどうかにかかわらず、学び続ける力、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服し責任ある行動をとる能力を卒業までに習得することにもなります。

今年10月には名古屋・鶴舞に国内最大のスタートアップ支援拠点「ステーション2」が開業しました。2階までの一般開放ゾーンからでもオープンインベーシンの息吹を感じとれるかもわかりません。

て、パリオリンピック出場及び入賞を果たされた本学の体操部岡村真選手を応援すべく、伊勢型紙を用いた展示を部員と共に作成しました。通常の活動では一人で作品を作るひっそりとした活動が多い中で、岡村選手の演技中の沢山のシルエットを図案にした応援展示の活動は部員にとっても大きな励みになりました。今も教職課程の岡村選手のサイン入りの色紙と共に伊勢型紙作品展示コーナーを設けてありますので、ぜひご覧ください。

名誉教授称号授与式



岩崎恭典 名誉教授

四日市大学では、
本学に長年在籍し、
教育・研究などの学
術面での業績、また
社会や地域への貢献、
学部長など学内の要
職を務められるなど、
本学において顕著な功績を挙げられた教員に対して
名誉教授の称号を授与しています。

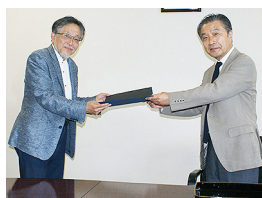
令和6年度は、前四日市大学学長・岩崎恭典先生
に名誉教授の称号が授与されました。

岩崎先生は、総合政策学部開設時に本学に赴任し、
総合政策学科長、教学部長、副学長、学長補佐等を
歴任されました。

また、長期にわたり大四日市祭り（大入道）、石
取祭り、鯨船など学生と地域を結ぶ活動にも熱心な
取り組みられました。また、平成25年には三重県教育
委員会委員長、平成30年10月文部科学省地方教育行
政功労者に表彰されています。

授与式は、昨年に続き全学教授会場の場を借りて行
われ、喜岡学長からは、これまでの本学へのご貢献
への感謝と、今後も健康にご留意いただき、様々な
面で本学を支えていただきたいとの言葉があり、岩
崎先生からは今後も関わりは続くのでよろしくお
願いしますとの挨拶がありました。

会場からは盛大な拍手
が送られました。



▲ 岩崎名誉教授(左)と喜岡学長(右)

令和5年度 前学期

「Good Practice 賞」表彰式

全学FDである「教学フォーラム」において令和5年
度「Good Practice 賞」の表彰式を挙行了しました。

「Good Practice 賞」とは学生による授業改善アンケ
ー等の結果に基づき、評価の高かった優れた授業や取り組
みに対して学長が学長裁量経費により表彰するものです。

前学期は、鶴田利恵教授が受賞されました。

● 鶴田利恵教授（写真上）

【授賞理由】 授業改善アンケートにおいて、「授業・教
員について」の設問（①～⑧）の回答の平均値が4.5以
上の科目に、担当科目のうち「開発経済学」「現代財政
学」の2科目がランクインし、高い評価を得たこと。

後学期は、小林 慶太郎教授と青木 陽子特任准教授が
受賞されました。

● 小林 慶太郎教授（写真中）

【授賞理由】 担当科目「食とまちづくり」が、授業改
善アンケートの回答者20人以上かつ回答率80%以上の
科目中で、「授業・教員について」の設問（①～⑧）

教育改善・改革プラン選定結果報告

環境情報学部みんなで盛り上げる

卒業研究・卒業制作

環境情報学部長 教授 廣住豊一

これまで環境情報学部では専攻ごとにそれぞれ独立し
た企画として卒業研究・卒業制作の発表会を開催してい
ました。今回選定された教育改善・改革プランでは、卒
業研究・卒業制作を環境情報学部みんなで盛り上げるた
め、これらの発表会を学部としてひとつにまとめ、学
部をあげて実施する年に1度のアカデミックなイベン
ト「四日市大学環境情報学展」として開催する計画を立

の回答平均値が最上位であったこと。

● 青木 陽子特任准教授（写真下）

【授賞理由】 授業改善アンケートにおいて、「授業・教
員について」の設問（①～⑧）の回答の平均値が4.7以
上となった科目に、担当科目「基礎英語Ⅱ」「基礎コ
ンピュータⅡ」の2科目がランクインし、高い評価を
得たこと。

本学では、今後も教育改善・改革を推進するために、
教員の優れた取り組みを顕彰し、より質の高い教育を実
践してまいります。



てています。2024年10月26日に開催された四大祭で
は、そのプレイベントとして「卒業研究ポスター発表会」
を実施しました。当日はポスターセッション形式で20課
題の研究発表が行われました。喜岡学長をはじめ、多数
の教職員、在学生、卒業生が会場を訪れました。それぞ
れのポスターの前では、研究内容を熱心に説明する4
年生と参加者の間で活発なディスカッションが行われ、
発表会は大盛況となりました。メインイベントの「四
日市大学環境情報学展」は
2025年1月29日（水）・
30日（木）の2日間開催す
る予定です。



▲ ポスターセッション

令和6年度

四日市大学教育後援会 「保護者懇談会」の開催

令和6年10月6日、都ホテル四日市において喜岡学長をはじめとした教職員及び約30名の保護者が参加して、教育後援会「保護者懇談会」が行われました。

今回は第1部として体操女子代表としてパリオリンピックに出場した総合政策学部1年の岡村真さんと所属する相好クラブの外村和才監督をお招きして「パリオリンピック2024に出場して」と題した特別報告を行いました。進行役を環境情報学部特任教授（本学体操部顧問）柳瀬先生にお願ひし、パリオリンピックでの貴重なお話などをしていただきました。現地で起きたトラブルを吹き飛ばし、チームでの奮闘により8位入賞を果たした力強さが伝わってきました。

その後、第2部の教職員との個別面談へと移行し、学生の状況等についてゼミ担当教員やキャリアサポートセンター職員等との熱心な質疑応答や意見交換が行われました。

本懇談会は保護者の皆さんと直接出合える場として今後も継続してまいります。



▲ 全体会の様子



▲ 個別面談の様子

令和6年度

四日市大学教育後援会 役員ご紹介

役職名	氏名
会長	池尾 晃 則
副会長	西村 一成
書記	高橋 潤
会計	諸岡 功 一
監査	間瀬 慎 一
監査	服部 美 帆
幹事	出口 将 人
幹事	名倉 佳 孝
幹事	加藤 里 枝
幹事	中溝 聡
幹事	新見 禎 一
幹事	坂本 尚 樹

自己点検・評価と大学機関別認証評価

本学は令和5年度に「内部質保証」の一環として、本学独自に自らの教育・研究・社会貢献活動を評価・点検し、「令和5年度自己点検・評価報告書」を作成しています。また、令和6年度には高等教育機関が7年に一度受審しなければならない「大学機関別認証評価」を受審しました。この「大学機関別認証評価」は、学校教育法に定められ、第3者である認証評価機関（日本高等教育評価機構）から審査を受けます。

認証は機構が定めた基準に基づき行われ、議事録等学内資料の確認、さらには評価員の先生方が実際に大学の視察を行う「実地調査」等が行われます。10月29日、30日の2日間にわたり行われた実地調査では、評価員から大学の取り組みについて、教職員や学生が面談を受けました。審査の結果は、評価チームの評価案が本学とのやり取りを経て、評価機構の理事会にて決定されます。評価項目の中には、十分な取り組みが出来ていないところもありますが、無事に認証を受けることが出来るよう引き続き努力していききたいと思います。

特待生認定証授与式と座談会

9月17日に四日市大学特待生認定証の授与式が行われました。特待生制度は、学業成績が優秀な学生に対し奨学金を給付する制度です。本年度は6名の学生が認定されました。

授与式の後、喜岡学長及び小林副学長と学生との座談会が実施され、教育課程の効果や学生の満足度について意見交換を行いました。キャリア教育の充実や抽選科目の選定方法などカリキュラムの細部にわたる意見も交わされ、貴重な場となりました。

こうした学生からの率直な意見を大切にし、具体的な改善に向けた取り組みを進めていきたいと思います。



2024年度特待生認定者

学部	学年	氏名
総合政策学部	2	藤川 聖 菜
	2	井伊 千陽
	3	高橋 拓光
環境情報学部	4	宮上 結羽
	3	三輪 祥大
	3	坂口 瑠那

Yokkaichi University Festival



お笑いライブの様子



軽音ライブの様子

10月26日に四日市大学大学祭が開催されました。天候にも恵まれ、昨年を大きく上回るたくさんの方々に来場いただき、今年のテーマ「Restart」に込めた願いのとおり、ここからまた元気にスタートしよう！と数々の企画で盛り上がりました。

学生ホールでは、縁日風アトラクションとレーシングゲーム、1号館では茶道、ボードゲーム、伊勢型紙などの体験ブースやゼミ研究発表展示、2号館では環境情報学部による卒業研究のポスター発表と特定プロジェクト研究発表の上映などがありました。

3号館では、人気のお笑い芸人ゴージャスさんと真空ジェシカさんを迎え、ほぼ満席となる大盛況で、会場は笑い声に包まれました。

スタジオでは、本学の音響ゼミ、照明ゼミ、映像ゼミの演出による軽音ライブが開催され、軽音楽部のメンバーたちの息の合った演奏に、多くの観客が魅了されました。

屋外では、とりてき焼きそばの模擬店、留学生による各国の演舞披露、郷土料理の販売、またキッチンカーなどで賑わいました。

今年の四日市大学大学祭は多くの来場者に支えられ、笑顔と活気にあふれる一日となりました。多彩な催しやパフォーマンスで学生はもちろん地域の方にも楽しんでいただくことができ、主催した学友会メンバーも充実した表情で達成感を味わっていました。ご協力ありがとうございました。

Re:start

四大祭 2024

課外活動報奨金授与式

学長賞(スポーツ功労賞)と女子体操部への課外活動報奨金授与

総合政策学部1年生の岡村真さんは、パリオリンピック2024に体操女子団体選手として出場し、見事8位に入賞しました。暁高校在学時にも素晴らしい成績を残していますが、本学学生として、オリンピックに出場したことは、輝かしい成果と言えるでしょう。

本学では、これを祝して、学長賞(スポーツ功労賞)と課外活動報奨金を1年生の必修授業である「人間たれ」の時間をお借りして、多数の受講生の見守る中、喜岡学長から授与



しました。なお、岡村さんからは、体操の日本チーム全員のサインが記された記念プレートが本学に寄贈されました。記念プレートは教学課事務所にて学生に紹介した後、大学正面玄関にて展示しています。岡村さんは、次のオリンピックに向けて、今後も数々の競技会に出場しますが、大学生として将来の夢に向けた学修にも励んでもらえるものと期待しています。

2024年度全日本学生テニス選手権大会(インカレ)の結果

2024年8月12日から18日まで、四日市テニスセンターで開催された「全日本学生テニス選手権大会」のシングルスに、総合政策学部1年の長谷川大豪さんが初出場し、1試合目に福岡大学の吉原幹人選手から2セットを先取し勝利したものの、2試合目の関西大学の堀川莞世選手に1セット目は勝利したものの、その後2セットを取られ、敗れました。結果はベスト32でした。

本学テニス部の長谷川監督のコメント「今年は1年生にして『東海学生春季テニストーナメント』でシングルスベスト8に勝ち残った長谷川大豪が、全日本学生テニス選手権大会の本戦にストレートで出場できたことは本当に良かったです。本人にとっても初めての



した結果を残すことができた。本当にありがとうございました。」

大会でインカレに出場できたこと、また、全国レベルの高いテニスを体感できたことは、今後の競技生活を考えた上でも非常に良い経験であったと思います。本大会は、地元四日市で開催されるので、本学関係者をはじめ多くの先生が応援に駆けつけてくれました。大会前には、喜岡学長から激励金を授与されて、本当に感謝いたします。大学をはじめ皆さんの応援のおかげでこ

愛知産業大学と四日市大学との

包括連携協定締結式を挙

◎ 両学初 の 包 括 連 携 協 定 の 締 結

9月10日、本学と愛知産業大学は包括連携協定を締結しました。これは、本学の喜岡学長と愛知産業大学の高橋学長との合意を基に、さらに両学が文部科学省の「大学・高専の機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）」に採択されたことを受けて、今後の大学改革と新しい大学創りに相互に協力し、両学の発展を期すことを目的に締結されました。

名古屋市の名古屋ガーデンパレスにて行われた締結式には、両学学長の他、副学長等の役職者が揃い、学長による協定書への署名が行われました。

両学共に、国内の他大学との包括連携協定の締結は初めてのことであり、大学間連携を協力しながら進めていく第一歩になるものと思います。

両学長は挨拶において、教員採用におけるクロスアポイントメントの実施、DXハイスクールへの対応など、具体的な連携について、早速言及していました。

締結式終了後には、出席者による情報交換会が行われ、連携を具体的に進めていく場づくりなど、今後の展開への期待が語られました。



署名に臨む両学長と締結式の様子 ▲

協定書を掲げる喜岡学長(左)と高橋学長(右)



「四日市大学公開講座2024」の開催

四日市大学公開講座2024（三重県・四日市市後援）が、9月21日「じばさん」にて開催されました。

副学長小林慶太郎総合政策学部教授が講師を務め、「B-1グランプリとは何だったのか」その目的と効果」と題して登壇しました。

今回初参加の方9名を含む21名にご来場いただき、時折、笑いも起きる和やかな雰囲気で開催しました。

講演は、①四日市とんてき協会の活動 ②2023東海・北陸B-1グランプリ③四日市④B-1グランプリとダイバーシティの3部仕立ての構成でした。内容としては、15年以上前から四日市市若手職員との勉強会で「まちおこし」のために何をやらたらよいか模索してきた経緯や「一般社団法人四日市とんてき協会」代表理事に就任した裏話、B-1グランプリ開催の道のりなどを当事者ならではの苦心談を交えて語りました。

来場者からは、「90分とても楽しく聴かせていただきました」「B-1グランプリが多様性（ダイバーシティ）に繋がっていることがよくわかりました」等の感想が寄せられました。

本学では開学2年目の平成元年から研究成果を広く公開し、地域の皆様の生涯学習を推進することを目的として、公開講座を開講しています。



社会連携活動報告

「みえアカデミックセミナー2024」の開催

三重生涯学習センターが主催し、県内の高等教育機関が持ち回りで講座を担当する、みえアカデミックセミナー2024が、津市の三重県文化会館「レセプションルーム」にて行われました。

本学は、7月18日の「公開セミナー」を担当し、副学長の鬼頭浩文・環境情報学部教授が「能登半島地震から学ぶ三重の地域防災」と題して講演しました。元日に発生した能登半島地震の影響もあり、今回のセミナーは、三重県内にお住まいの方にも関心の高いテーマであり、多くの方にご来場いただきました。講演では震災時の「避難経路の安全確保」の話があり、夜中でも地震は起きるので、停電した暗い中での避難を想定し、ガラスの破片を踏んでケガをしないように、枕元に懐中電灯に加え、「靴やスリッパ」を用意しておいたほうがよいとの話や、避難生活で炊飯器がなくてもお米が炊ける「ポリ袋炊飯」の作り方についての話もあり、メモを取りながら聞いている方も多く見られました。

みえアカデミックセミナーは、三重県内の全15校の高等教育機関が有する高度な学びと県民のみなさんをつなぐ一大連携事業です。健康・医療・福祉・歴史・文学・子育て・教育・機械工学などの、各校の特色を活かしたバラエティ豊かなテーマのセミナーを展開しています。「公開セミナー」の他に「オープニング講演会」や「移動講座」が開催されています。



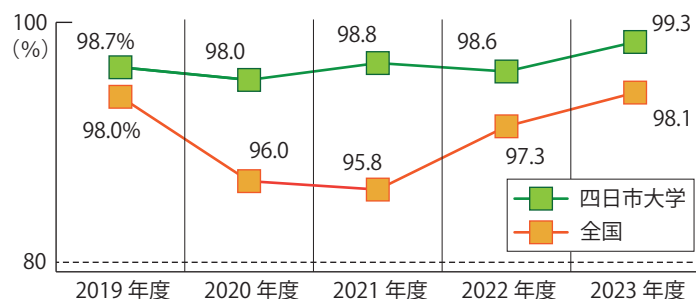
就職活動 (2024 年度就職状況について)

キャリアサポートセンター

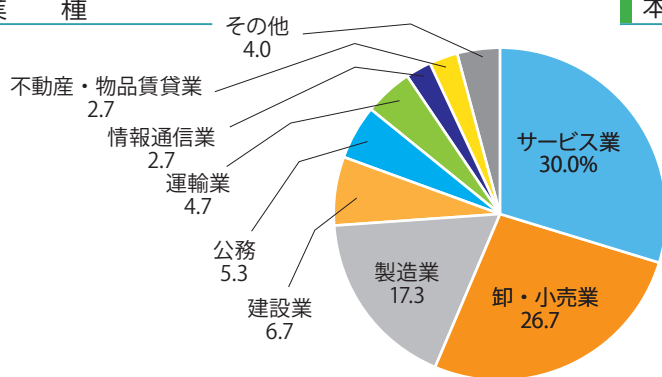
2024 年度就職・採用環境は、企業の採用意欲が堅調に推移する中、全般的には学生優位な「売り手市場」と言えます。本学の4年生に於いては、早い時期から就職活動を始め3年生の後学期には内々定を獲得した学生もいました。内定率も前年同時期と比べ上回っています。

就職活動は終盤を迎えていますが、まだまだ採用を継続している企業はあります。キャリアサポート課では未内定の学生に対し更に一歩踏み込んだ就職支援を行い、就職希望の学生全員が内定を獲得できるようにサポートを続けます。

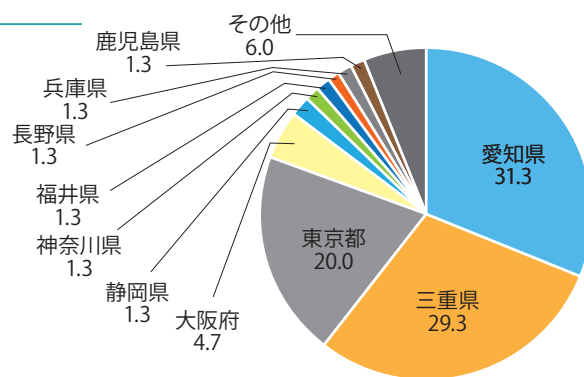
就職率推移グラフ



業 種



本社所在地



■ 主な就職先(2023年度) ■

岡三証券(株) / いちい信用金庫 / セントラル警備保障(株) / 三重総合警備保障(株) / イセツ(株) / (株) 関電パワーテック / 都市環境整美(株) / トーテックアメニティ(株) / 月島ジェイテクノメンテナンス(株) / 西鉄旅行(株) / (一財) 東海技術センター / (株) 東海テクノ / (株) 酒重 / (株) 中村製作所 / 日本メディアシステム(株) / マックスバリュ東海(株) / (株) NHC / (株) ドン・キホーテ / ユニー(株) / (株) 柿安本店 / (株) コロナ / 松阪興産(株) / (株) 中村製作所 / (株) トピア / 永大産業(株) / 河村電器産業(株) / 藤倉航装(株) / 大和冷機工業(株) / 三重電子(株) / (株) 前田テクニカ / 水谷建設(株) / 第一工業(株) / (一社) 日本貨物検数協会 / (株) ミエデン / 四日市市役所 / 津市役所 / 三重県警察本部 / 伊賀市消防本部



四日市大学では、10月17日に、三重県からの呼びかけにこたえる形で、SDGsについて産官学で考えるワークショップ「ミエミライ2024」を開催しました。当日は、総合政策学部の2、3年生50人が参加し、就職活動に向けてSDGsへの理解を深めました。

本企画に協力しているNPO法人「Mブリッジ」の代表理事である米山哲司さんからSDGsについて社会、経済、環境の3側面について、さまざまな関係者が協同して進めることが大事などの説明を受け、また「SDGsへの貢献意識が高い会社の方が、働きがいがあると感じる社員が多い」とも紹介されました。ミエミライは、飲料メーカーの「コカ・コーラボトラーズジャパン」(東京)とも連携しています。

参加した学生からは「今まで私は『稼げればいいや』って感じで就職について考えていたのですがSDGsの考えがある会社の方が、将来性があると知ったので企業選びの判断材料にしていきたいです。」などの感想が寄せられました。

ミエミライ 2024

「幸せな未来をつくる仕事の選び方」
SDGsの視点を就活に活かそう
の開催

2025年度四日市大学入学試験情報



入学試験日程【総合政策学部・環境情報学部共通】

選抜	入試名称	出願期間	試験日	合格発表日
一般入試	A日程	1月 6日(月) ～ 1月29日(水)	2月 3日(月) 2月 4日(火)	2月 8日(土)
	B日程	2月10日(月) ～ 2月18日(火)	2月20日(木)	2月22日(土)
	C日程	3月 1日(土) ～ 3月 7日(金)	3月 8日(土)	3月12日(水)
共通テスト利用 入試	I期	1月 6日(月) ～ 1月31日(金)	－	2月 8日(土)
	II期	2月10日(月) ～ 2月18日(火)	－	2月22日(土)
	III期	3月 1日(土) ～ 3月 7日(金)	－	3月12日(水)
	IV期	3月13日(木) ～ 3月19日(水)	－	3月22日(土)
共通テストプラス入試		1月 6日(月) ～ 1月29日(水)	－	2月 8日(土)
クラブ推薦入試	C日程	2月10日(月) ～ 2月13日(木)	2月20日(木)	2月22日(土)

2025年度入試の詳細は、入学試験要項で必ずご確認ください。

奨学金制度

入試特待生

採用枠 40 名・返還不要

対象入試の成績上位者から選抜、授業料（最大全額）を減免！

4年間
継続
[免除額]

1種	2,720,000 円 [初年度の減免額 680,000 円]
2種	1,360,000 円 [初年度の減免額 340,000 円]
3種	816,000 円 [初年度の減免額 204,000 円]

対象入試

一般入試
共通テスト利用入試
共通テストプラス入試

給付項目

授業料の
1種：全額免除
2種：50%減免
3種：30%減免

期 間

原則 4 年間採用

※ 2 年次以降も条件を満たせば
特待生が継続されます。

四日市大学入学支援同窓生奨学金

入学検定料 1 万円補助、入学金の半額補助！

四日市大学では、同窓生の入学支援奨学金制度を実施しています。在学生および卒業生の二親等内の親族が本学を受験する場合に、この特典を受けることができます。

※若干名 ※奨学金補助は入学後に、入学検定料一部補助は受験後の手続きにより返金します。

※本学における、他の諸納付金減免または奨学金給付を併用することはできません。ただし、貸付型奨学金はこの限りではありません。

問い合わせ先 入試広報室 TEL: 059-365-6711 E-mail: nyushi@yokkaichi-u.ac.jp

名誉教授称号授与

四日市大学名誉教授

岩崎 恭典

令和6年6月5日付

人事異動

(令和5・6年度)

〔退職〕

総合政策学部特任教授 岩崎 恭典

令和6年3月31日付

総合政策学部特任教授 奥原 貴士

令和6年3月31日付

総合政策学部准教授 本部 賢一

令和6年3月31日付

環境情報学部特任教授 吉山 青翔

令和6年3月31日付

教育・学生支援部教学課長 渡辺 ひとみ

令和6年3月31日付

教育・学生支援部留學生支援課主任 大橋 二美

令和6年3月31日付

〔新規採用〕

総合政策学部教授 小泉 大亮

令和6年4月1日付

総合政策学部特任准教授 本部 賢一

令和6年4月1日付

総合政策学部特任助教 二村 建也

令和6年4月1日付

総合政策学部特任助教 松本 彩月

令和6年4月1日付

環境情報学部特任教授 喜岡 涉

令和6年4月1日付

環境情報学部准教授 黒田 淳哉

令和6年4月1日付

環境情報学部特任准教授 古山 歩

令和6年4月1日付

入試広報室 奥田 友幸

令和6年4月1日付

教育・学生支援部教学課 渡辺 ひとみ

令和6年4月1日付

永年勤続表彰

本学における令和6年度永年勤続表彰対象者は、次のとおりです。

〔30年勤続表彰〕

総合政策学部教授 岡 良浩

鬼頭 浩文

環境情報学部教授 樋口 晶子

後藤 雅史

環境情報学部講師 林 芳

事務局情報処理課長 後藤 雅史

教育・学生支援部留學生支援課 前川 督雄

環境情報学部教授 片山 清和

環境情報学部教授 片山 清和

編集後記

大学広報の多様化

学報第73号をお届けします。これまで学報は本学広報の大きな柱のひとつでしたが、近年は情報公開有無の判断基準として、ホームページへの掲載が取り上げられ、また速報性という点においてホームページやその他のSNSが優っていることは明らかです。大学広報の多様化の中で「学報」のような紙媒体は今後どうあるべきか。編集に関わるものとして自問しています。